

本授業の主張点

本授業では、サンキューシートを用い、中心発問で児童に行為の対比をさせ、行為に対する気持ちや今後起こりえることを出し合うことにより、授業のねらいに迫ります。そして、「波紋タイム」において価値を主体的に自覚していく児童の姿をめざします。

1 授業名 生きるよろこび

2 授業の目標

かけがえのない生命の大切さに気づき、生きることを喜ぶとともに、自分本位の気持ちばかりを押しつけて生き物の世話をするのではなく、生き物にとって何が最もよい生き方なのか考えることを通して、生命を大切にする心情を育てる。

3 児童の実態に応じた授業と授業構想について

本学級の児童は、生活科で育てた作物の世話や家庭から持ち寄ったこん虫の世話などに進んで取り組み、命あるものを大切に育てたいと感じている。また、友だちに優しく声をかけてあげるなど、相手を大切に感じている姿が見られる。しかし一方で、自他のよさに目を向けることができず、自己有用感が低い児童の姿も見られる。学級の児童に自己有用感についてアンケートを採ったところ、「一緒に遊んでくれる友だちがいる」と答えた児童は100%であったが、「友だちから褒めてもらえない」と答えた児童が17%、「友だちから応援してもらっていない」と答えた児童が23%いた。このことは、友だちと触れ合う中で、認めてもらうことに喜びを見出していなかったり、優しい言葉かけなどをしてもらっても意識できていなかったりというようなことが考えられる。

そこで、集団生活において、かけがえのない自他に目を向けさせ、互いを認め合ったり、自分や友だち、その他動植物の命を感じあったりして自分自身を振り返り、深く考えることができる児童の姿を期待したい。

自他を尊重できる心

〔9月3日実施〕

主題名 悪いと気付いたら
1-(4) 正直明朗

資料名 「わらったねこ」
ねらいの概略

うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活しようとする心情を育む。

〔9月18日実施〕

主題名 家族の役に立つ
4-(3) 家族愛

資料名 「とつぜんの雨ふり」
ねらいの概略

父母、祖父母を敬愛し、家の手伝いをして、家族の役に立とうとする心情を育む。

〔9月25日実施〕

主題名 大切な友だち
2-(3) 友情

資料名 「どっち一ぬくん」
ねらいの概略

友だちの大切さを知り、友だちと仲良くしようとする心情を育む。

〔10月10日実施〕本時

主題名 命のとうとき 3-(2) 生命尊重

資料名 「すずめの赤ちゃん」

ねらいの概略

生き物にとって何が大切なことかを考えることを通して、生命について見つめ直し、命あるものを大切にしようとする心情を育む。

授業構想図（実施期間9月上旬～10月上旬）

前述の授業構想図は、「1. 主として自分自身に関すること」、「2. 主として他者のことに関すること」、「3. 自然や崇高なものに関すること」、「4. 集団や社会に関すること」の価値項目を網羅した授業のつながりを表したものである。構想の根底には、自分自身を深く見つめることが自己理解や他者理解につながっていくと考え、命の尊さについて取り扱うことにする。命の尊さについて深く考え、生きとし生けるもののすべての命をかけたえのないものとして尊重し、自他の存在を見つめ直そうとする心を育てていきたい。

展開前段において、本年度の研究の視点である行為の対比について問う中心発問を設定し、よりよく展開後段の「波紋タイム」につなげ、道徳的実践意欲・態度を育む手立てとしていきたい。

4 主題名 『命のとうとさ』

【内容項目3－(2) 生命尊重】

5 資料名 「すずめの赤ちゃん」 〈出典 「生命を尊ぶ心を育てる指導」 文部省〉

6 主題設定の理由

○ ねらいとする価値について

生命を尊ぶためには、かけがえのない命をいとおしみ、自分や友だち、人間以外の生命について知り、自分も友だちも含め命あるものが大切にされているかけがえのない個であるという認識を持つことが必要である。生命を尊ぶ心や生命への畏敬の念というような心情を育てることが、自分たち人間を含め、すべての生命を大切にすることに繋がると考え、互いを思いやる温かい社会をつくる土台となる。

しかし、盲目的にかわいがるといふ愛情の一方的な押しつけだけでは、生命を尊重しているとは言いがたい。人や動植物にとって最もよい生き方について考えさせることが、真に生命を尊重する態度につながると考え、本主題を設定した。

○ 児童について

この時期の児童は、生き物に興味を持つことが多い。本学級の児童は、生活科で育てた作物の世話や家庭から持ち寄ったこん虫の世話などに進んで取り組み、絵日記や観察日記の中にも、その様子や変化についての驚きを書き表すことができている。また、家で飼っている動植物の世話をするなど、身の回りの生き物を大切にしようとする児童が多い。しかし、一方、その興味・関心には個人差があり、一部の児童は、興味・関心が浅く、大切に育てたことがあるという体験が少ない。また、生き物が好きな児童についても、自分が興味のない生き物に対して無関心であったり、死んだ生き物をそのままにしておいたりするなど、生命を大切にしていこうという意識が弱い。

○ 資料について

学校の帰りに、巣から落ちたすずめの赤ちゃんを見つたりえこは、両手で温めながら家に持ち帰り大切に世話をする。りえこは、巣箱を作ったりえさをあげたりして大切に育てていく。すずめの赤ちゃんは、徐々に回復し、家の中を飛ぶくらいまで元気になる。りえこは、元気になったすずめの赤ちゃんにピーと名付け、ピーのかわいらしさや愛情から、外にも出さず、窓を閉め切った家の中で遊ばせるようになる。しかしある日、お父さんの友だちの言葉から、家の中で飼っていることが本当に幸せなのか考え始める内容の話である。

ピーへの愛情から、ピーの気持ちを考えられず、自分本位でかわいがってしまうりえこの気持ちに共感できる資料であるとともに、愛情の押しつけだけでなく、動植物にとって最もよい生き方を考え、飼っている動物の立場になって世話をすることの大切さに気付かせることのできる資料である。

○ 指導について

本時では、ただ生き物をかわいがることが、命を大切にすることにつながるわけではないということについて考えさせていきたい。

導入においては、生き物に触れ合い親しんでいる自分たちの姿を振り返らせ、命について考えるという本時のめあてへの方向付けを図っていきたい。

展開前段においては、主人公の気持ちの推移を押さえることで、ねらいにせまりたい。そのために、弱っているすずめの赤ちゃんを大切に育てる主人公の気持ちに自分を重ね合わせながら考えさせたい。中心発問では、飼い続けた方が良いか、逃がしてあげた方が良いかという主人公の気持ちを対比して示す。そして、飼われた動物の気持ちはどうであるのか、かわいがることが本当にその動物にとって幸せなのかを話し合い、主人公の思いや迷いを感じさせながら、生命を大切にすることについて深く考えさせたい。展開後段においては、「波紋タイム」において価値の自覚を促し、命についての理解を深め、今後の自己像を記述させ、道徳的実践意欲・態度を育むようにしていきたい。

終末においては、命にかかわる「まあるいいのち」の詩の歌を聴かせ、命の尊さについて心に刻ませ、さらにこれからの生き方について思いを高めさせていきたい。

7 本時について

(1) 本時のねらい

自分本位な気持ちで生き物を飼うのではなく、生き物の様子に関心を持ったり、生き物の立場に立ったりする大切さに気付き、生命を尊重する心情を育てる。

(2) 展開 ※ は視点に関わる部分

	学習活動と内容	中心発問(◎) 主な発問 (○) 予想される児童の反応 (・)	「指導上の留意点」 「期待される児童の変化」
導入	1 自分たちの日常の姿を振り返る。	○ これは何をしている姿でしょうか。 ・係が金魚の世話を頑張っている ・くわがた虫を一生懸命育てている ・作物に水をやっている	・本時のねらいに視点があたるように、生き物に親しむ児童の姿を紹介する。 ・自分たちの姿を振り返ることによって、本時のめあてにつなげる。
	めあて いのちについてかんがえよう		
展開前段	2 資料「すずめの赤ちゃん」を読み考える。 (1) ピーを助けようとするりえこの気持ちを考える。 (2) 家の中でピーを遊ばせるりえこの気持ちを考える。	○ りえこは、どんな気持ちでピーを助けたのでしょうか。 ・死にそうでかわいそう ・助けたいな ・からだを温めてあげるね ○ 家の中でピーをかごから出して、遊ばせているりえこはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・元気になってよかった ・わたしがお母さんになってあげる ・どんどん大きくなってほしいな	・範読しながら場面絵を提示し、主人公の気持ちを考えられるようにする。 ・すずめの赤ちゃんが、自分だけでは生きられないくらいにか弱いことを捉えさせるため、写真で実物を提示する。 ・からだを温めてやる様子やえさを与える様子を動作化して見せる。 ・りえこがすずめを育てていることに満足し、達成感を感じていることをつかませるため、りえこの気持ちを想像させる。 ・りえこの気持ちに気付かせるため、自分たちも飼っている虫たちを育てていることを思い出させる。 ピーを大切にしているりえこの気持ちに気付くことができる。
	3 異なる事象について考えられることを書き表し、全体で話し合う。	◎ 家の中でピーを育てたら、ピーの気持ちやピーのこれからはどうなのでしょう。 ・ピーを大切にできる ・ピーは喜ばない ・ピーは自由がないのでかわいそう ◎ ピーを空に放したら、ピーの気持ちやピーのこれからはどうなのでしょう。 ・家族のところに帰ることができる ・生き生きと過ごせる ・危険なことが出てくる	・お父さんの友だちの言葉ではっとしたりりえこの気持ちを考えさせるために、りえこが考えたであろう気持ちを対比して考えさせる。 ・価値に関わる心を見出すために、2種類を別々にウェビング化してまとめさせていく。 ・ウェビングで出された、心や行為について、良いことにつながるものと良くないことにつながることを色分けして考えさせ、本時のねらいに近付けていく。
展開後段	4 自己を振り返る。「波紋タイム」	○ 今日の話で心に残ったことは何でしょう。 ・かわいがるだけではいけない ・ピーのために良いことがある ○ 今後自分はどうしていきたいですか。 ・生き物の気持ちを考えたい ・ペットを遊ばせてやりたい	・多様な価値にふれさせるために、記述したことを全体で紹介させる。 ・今日の学習を受けて、今後の自分はどうなりたいかを書かせる。 生き物の立場に立って考える大切さに気付き、生命を大切にしようとする心情を持つことができる。
終末	5 生命の尊さについて考える歌を聴く。		・命の尊さを印象づけるために、命についてふれた歌を紹介し、温かく終える。